

「音楽を超えて～文部省唱歌のめざしたもの～」



歴史、地理、科学、道徳…、そして人々の心の風景。
唱歌は音楽を超えた総合教育であった。

浜松市楽器博物館では、明治 150 年記念特別展として
「教室で出逢った唱歌と童謡～音楽教科書が語る日本の歩み～」

を 2018 年 11 月 15 日～2019 年 1 月 6 日まで開催します。
会期中の 12 月 8 日(土)には、東京学芸大学名誉教授の
澤崎眞彦氏をお迎えした講演会を開催いたします。

私たち日本人が歌を口ずさみ、皆と一緒に歌をうたいはじめたのは、
明治時代の学校教育が始まってからのことでしょう。人々は、学校
で習う歌を“唱歌”と呼び、それを通して多くのことを学んできました。
ある時は、遊戯をしながら地球の自転と公転を学び、歴史や道徳
なども学んできました。

国は何を目指して唱歌教育を行おうとしていたのでしょうか？

一方、それぞれの歌をうたって過ごした人々には、歌は心に残る
思い出として生きてきました。唱歌・音楽の教科書の歴史をたどる時、
その心の想いや歩みが、鮮やかに現れてくることでしょう。講演会では、
実際の演奏も交えながら、総合教育としての唱歌の姿を探ってみます。



小学唱歌集 初編 明治 14 年



国定尋常小学読本唱歌 下 明治 38 年

2018 / 12 / 8 [土] 18:30 ~

場 所：楽器博物館 天空ホール
講 師：澤崎眞彦 (東京学芸大学名誉教授)
演 奏：ユール菝 他
指 揮：徳田陽子
定 員：100 人 (要申込・先着順)
聴講料：500 円
申込み：10/8 (月)より電話で楽器博物館へどうぞ
電 話：053-451-1128



この道 楽譜第 10 版 昭和 2 年初版



我が海の子 尋常小学唱歌 第 6 学年用



澤崎眞彦 (さわさきまさひこ)

1944 年生まれ。東京学芸大学大学院教育学研究科 (音楽教育専攻) 修士課程修了。同大学教育学部教授として研究と教育に従事する。2010 年 4 月より東京学芸大学名誉教授。論文に「明治初期の日本音楽による唱歌教育計画—「唱歌編製書類」による—」(1969)、著書に「なつかしの音楽教科書—音楽教科書あうたのルーツはどこに—」(2003 ヤマハミュージックメディア)、「日本人の洋楽の摂取に関する音楽文化史的研究 (上下) —江戸末期～明治中期にかけて—」(1987 文部省科学研究・共著)ほか、編著CDに「新訂尋常小学唱歌全集 (全六学年) (昭和 49 年度芸術祭参加) (1974 東芝EMI) など、著作物は多岐にわたる。2009 年ブラジル、パラ州政府より日伯文化功労章受賞。現在、日本教材学会会員・常任理事、公益財団法人古賀政夫音楽振興財団評議員、福山平成大学特任教授、日本大学講師。